

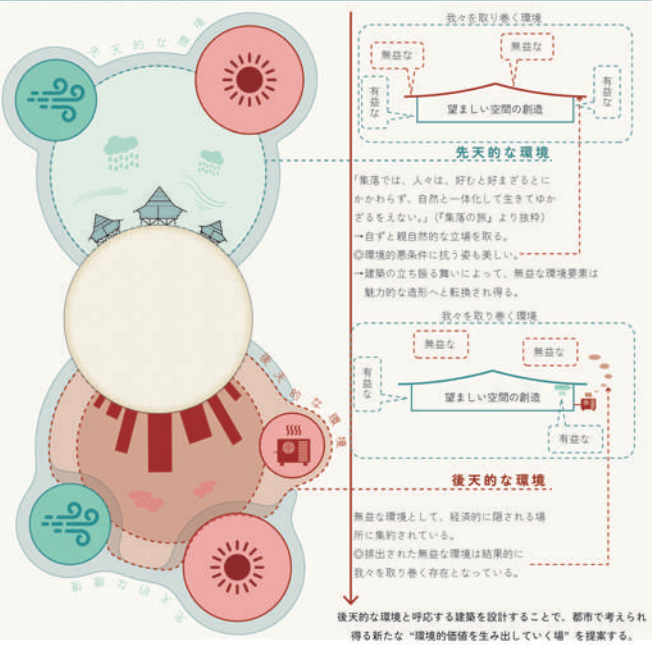
00. 集落の建築に惹かれる



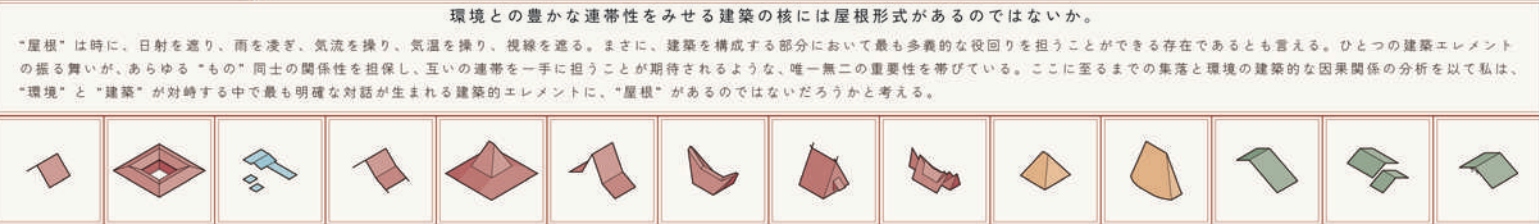
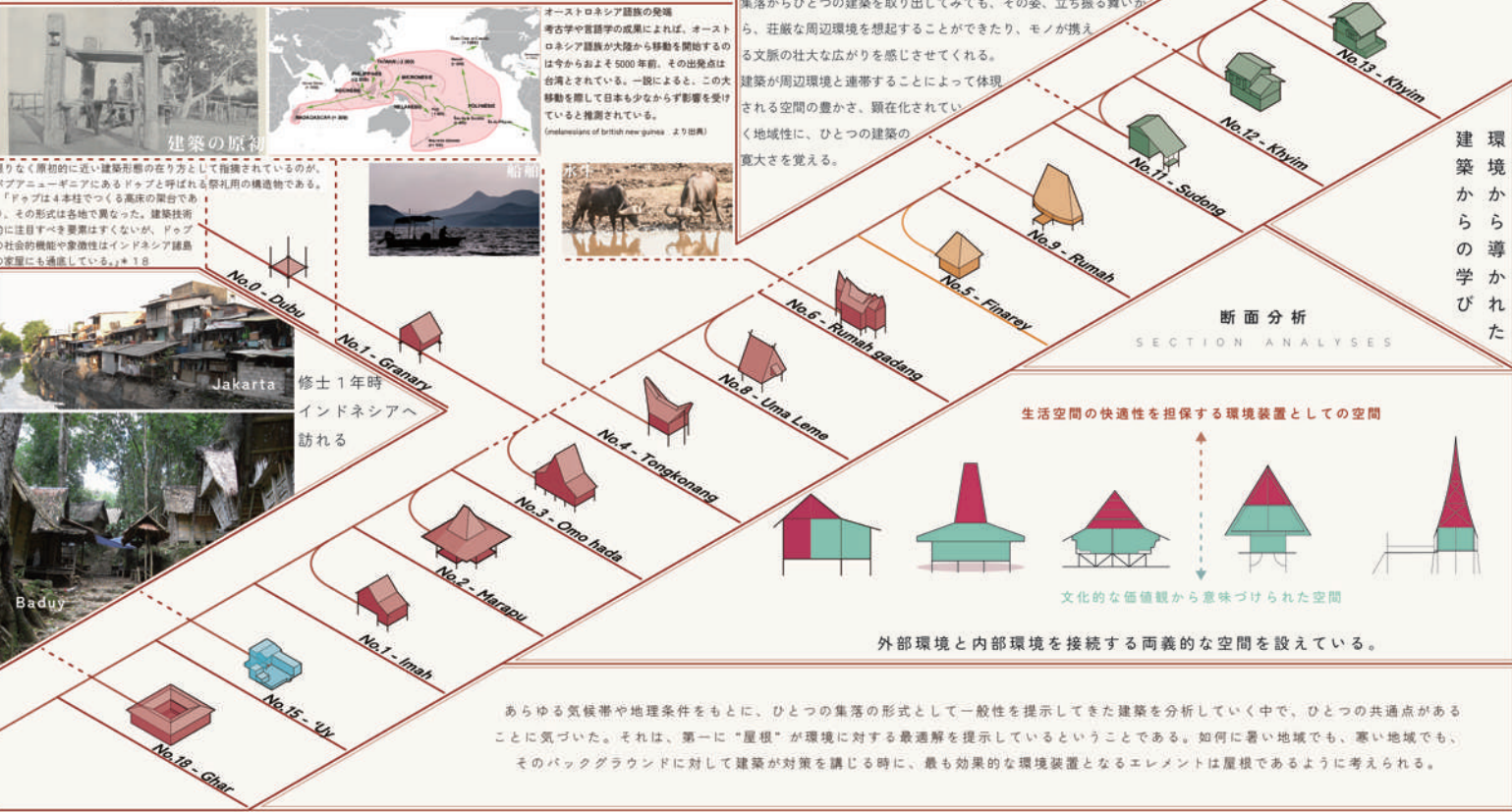
00. 環境の行方



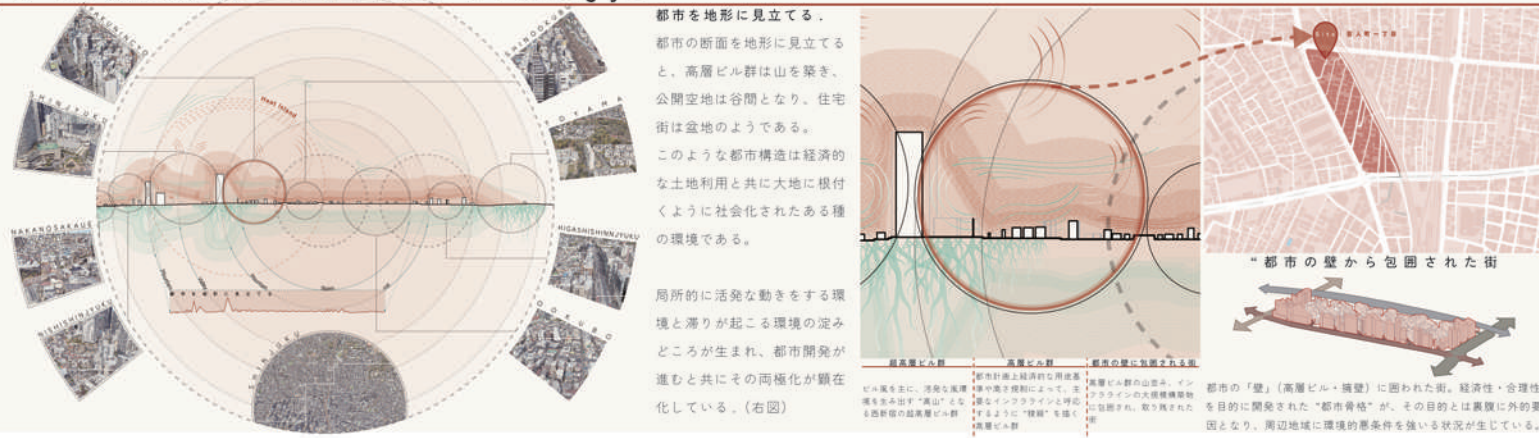
01. 環境の多元性



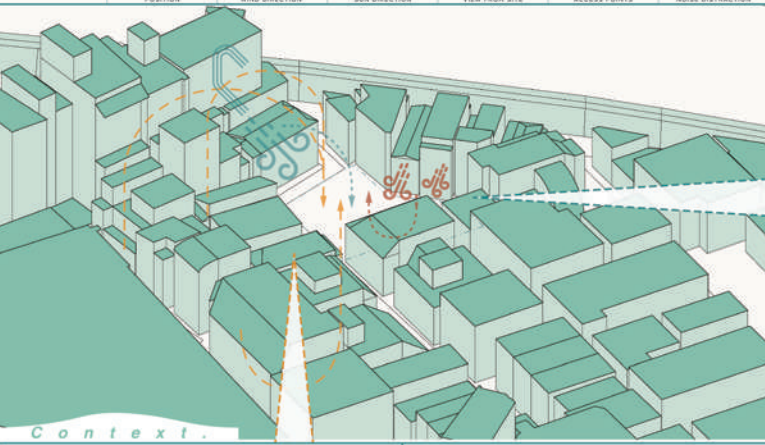
02. 環境と集落



03. 環境分析 | Urban Ecology.



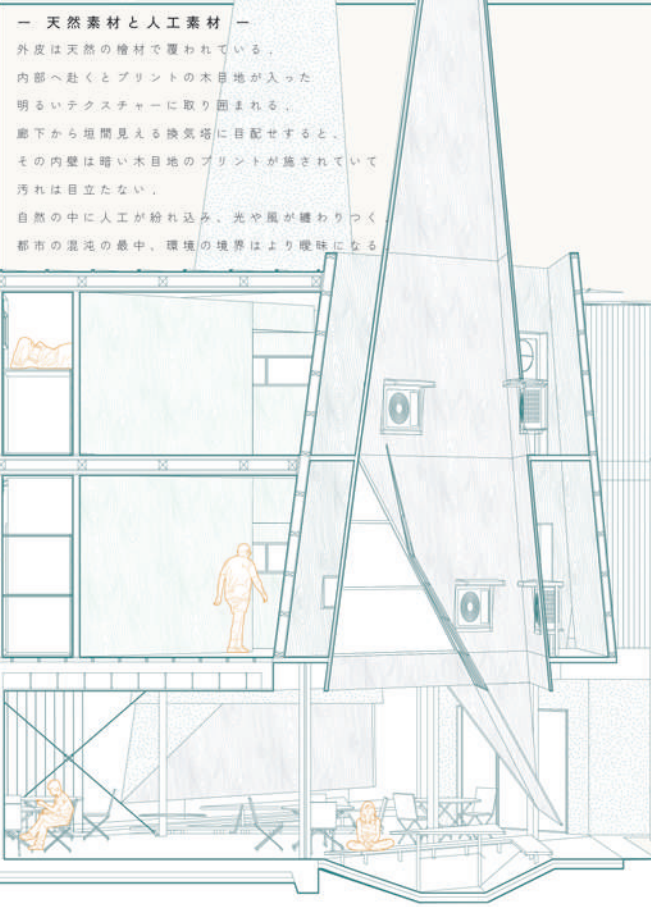
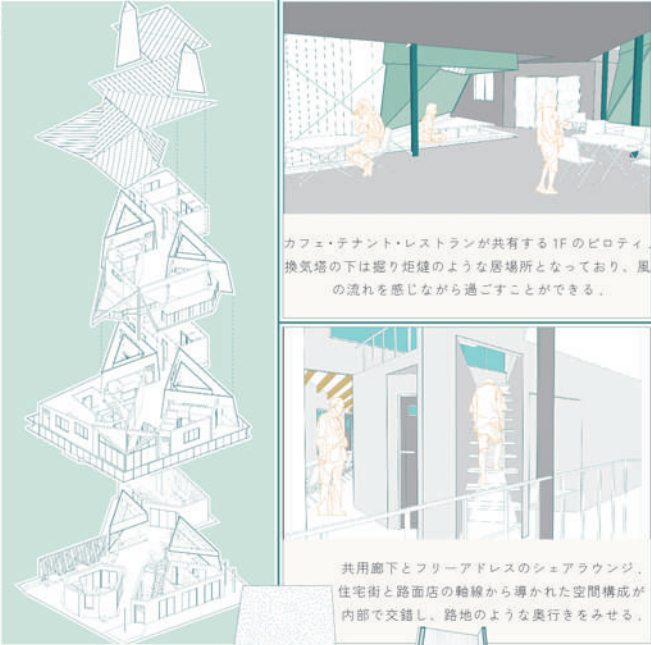
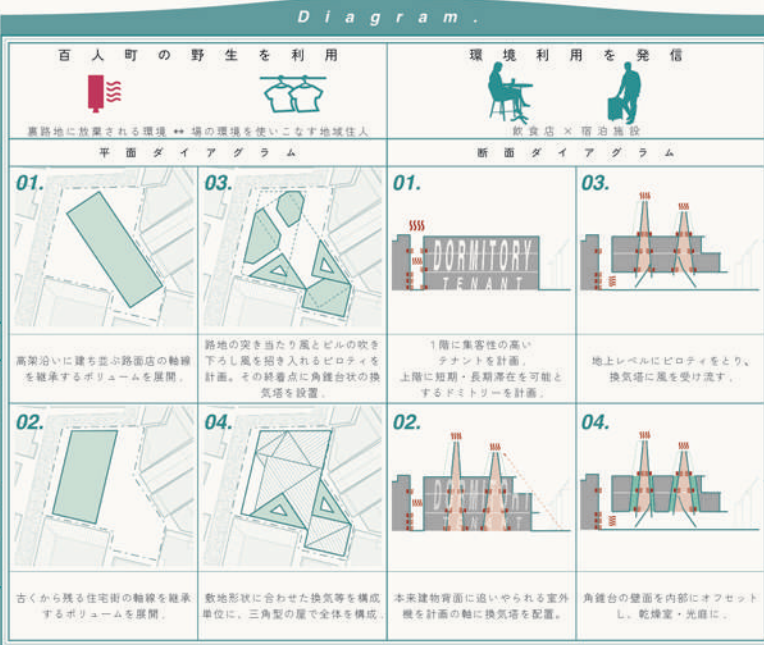
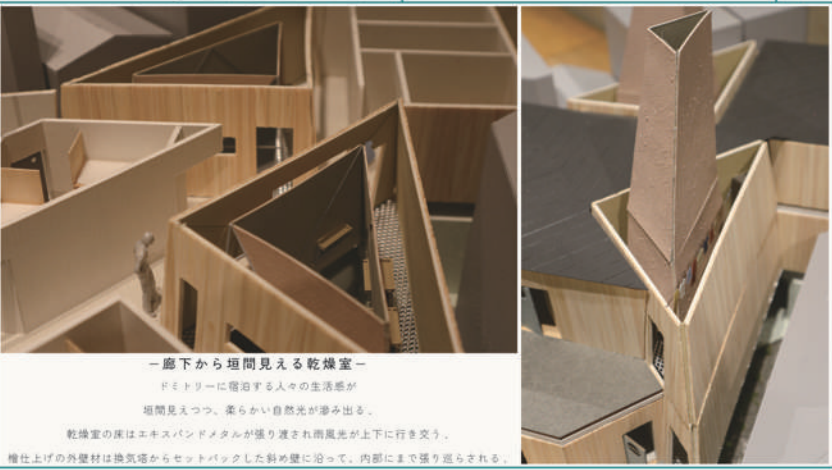
04. 抗生空間の投与 Case1 | Wind Catcher.



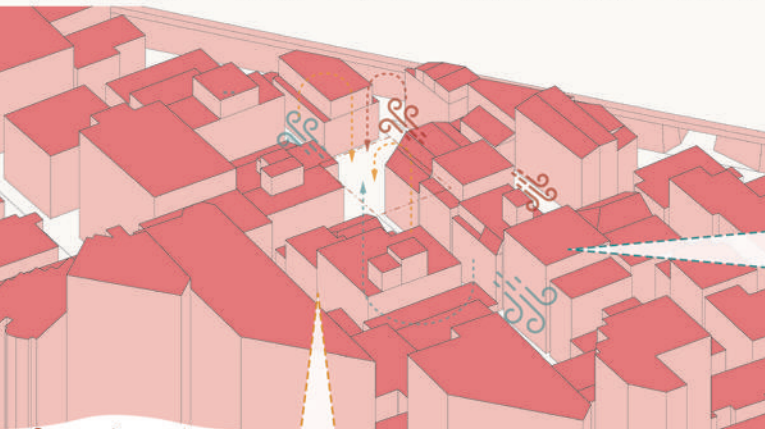
Y字に枝分かれする路地が続く百人町一丁目の中で、唯一突き当たりが目に見える敷地。



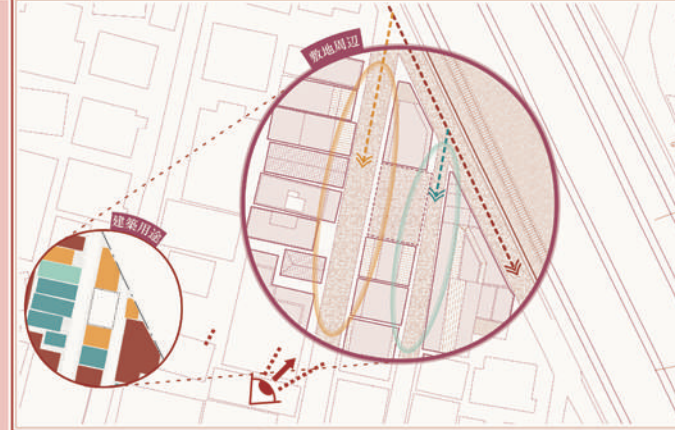
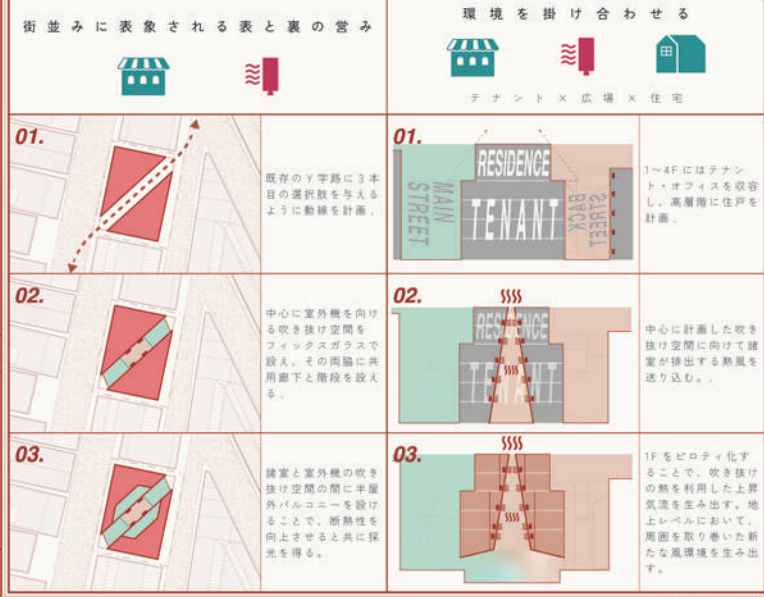
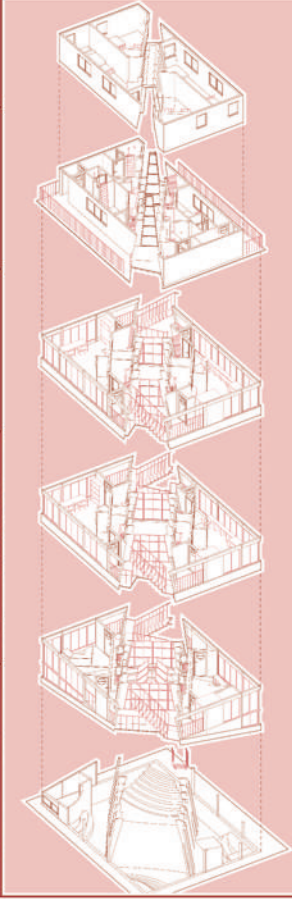
2路の軸線を探ったボリュームが積層し、換気塔がそれらを串刺しにする。百人町の分岐路に新たな環境の世界線が生み出される。



Environmental Elements

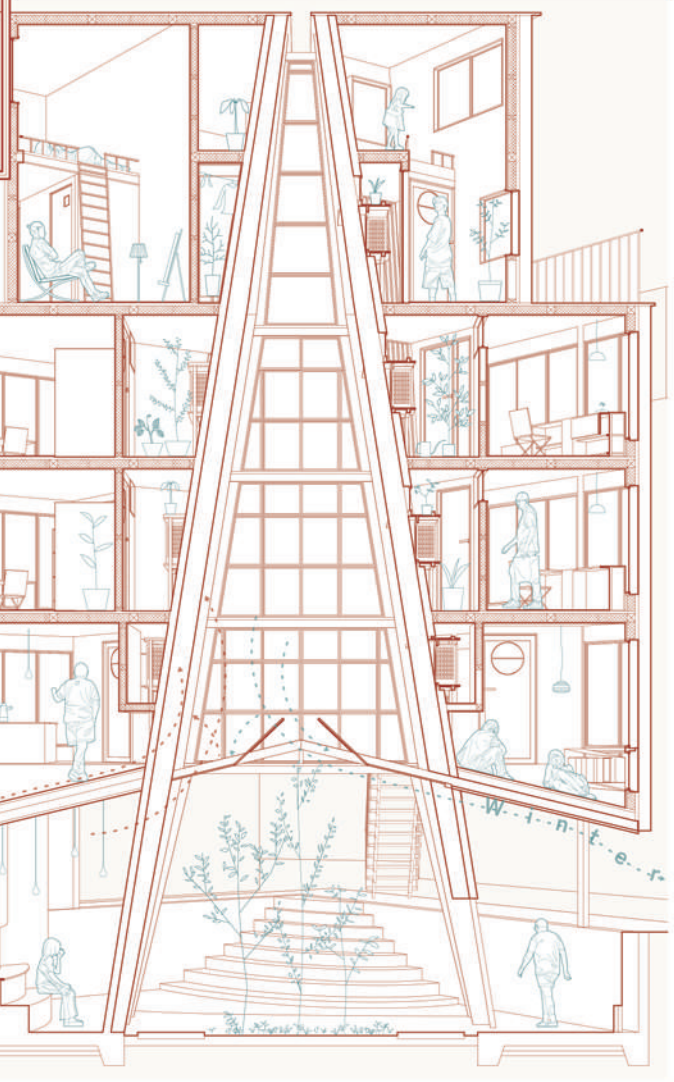
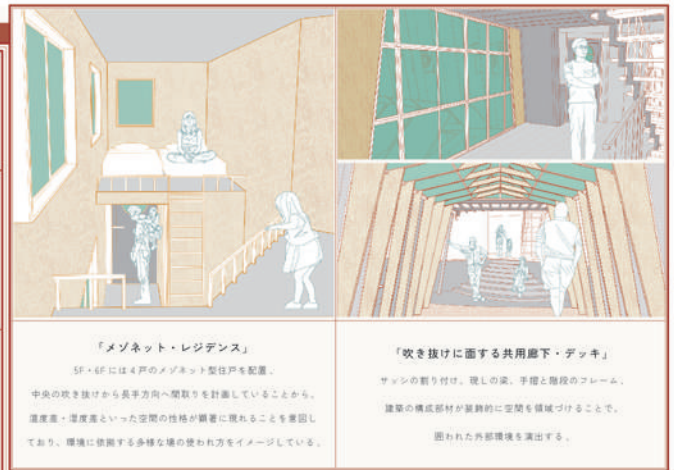


Context.

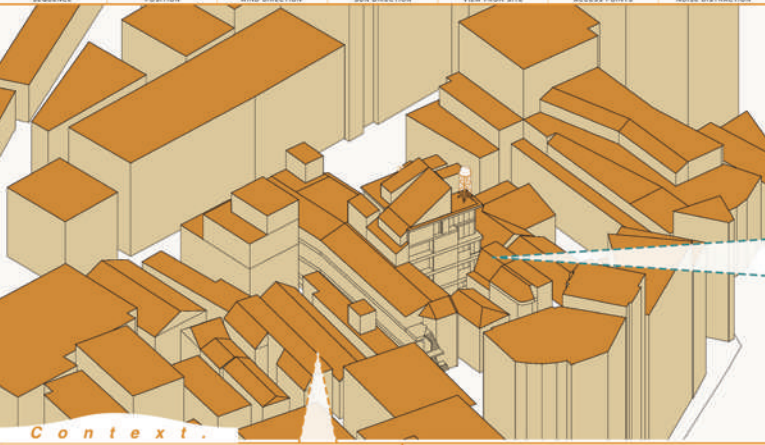


— 垂木とルーバー —

中心の吹き抜けは少し勾配をかけ、室外機を集約した吹き抜けを設ける。内に秘めた環境に対する屋根となる意匠的イメージで、構造的な支柱になりつつ室外機を隠すルーバーを設ける。これは構造的な支柱であると同時に垂木のようなイメージでもあり、ピロティを廻りファサードに表出することで、内外の環境が結果する全体性をも取り持つ。



Environmental Elements



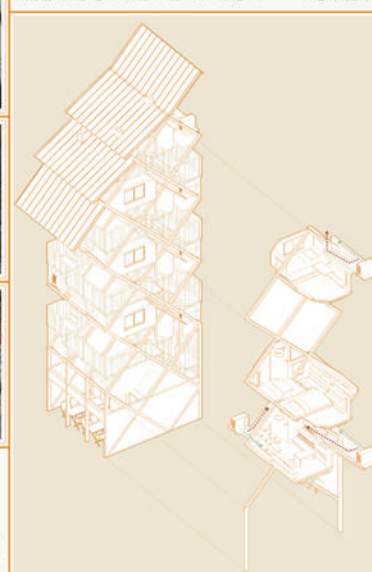
“大久保駅前”
大久保駅北口に接する繁華街。中国の様式を装飾的に装った宗教施設や飲食店など、所々に異国情緒が混入した街並みが広がっている。日本語の語学学校や、海外居住者向けのアパートも多く、在日外国人の割合が比較的高いエリアである。

“雑居ビルー繁華街側ー”
増築計画対象建物の繁華街側のファサード。4Fフロアに選ってテナントが収容されており、所狭しと看板が立て掛けられている。建物のフロアレベルを持ち上げ、地下へのアプローチが垣間見える雑居ビルが百人町には多くあり、街並みにも大きな印象を与えている。

“雑居ビルー住宅街側ー”
増築計画対象建物の住宅街側のファサード。赤いレンガタイルが基調の仕上げで、看板の有無で繁華街側とはガラッ印象が変わる。地下へ誘うコインランドリーや無造作に区画された駐輪場など、街の生活感が垣間見える。

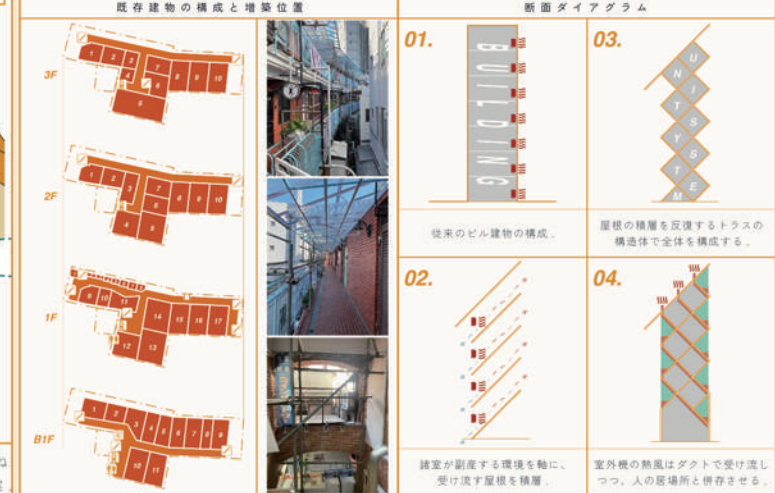


大久保駅前の繁華街と、専門学校や住宅が軒を連ねる閑静な路地の2面に面する雑居ビルへの増築提案。



一狭小空間に住うー
諸室は全て2段のボリュームから構成される。日常的な活動をする正方形グリッドのボリュームと、腰を下ろし休息する、睡眠をとる天井高の低いボリューム。シンプルな2種の空間構成が螺旋状に伸び上がっていくことで、多様な関係性を築いていく。

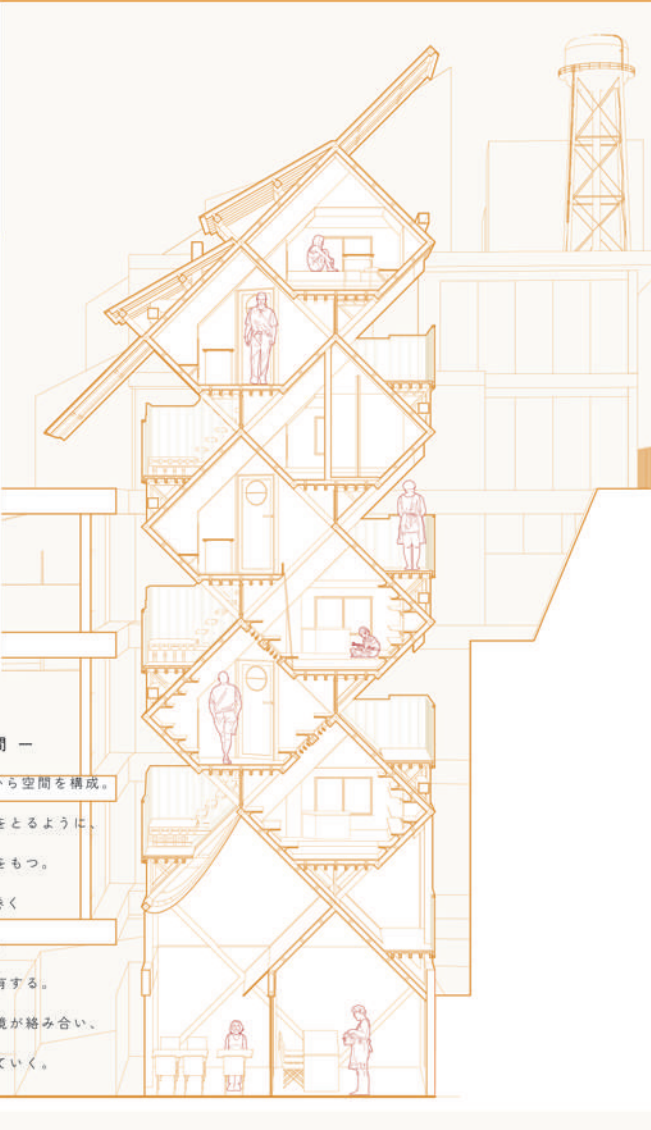
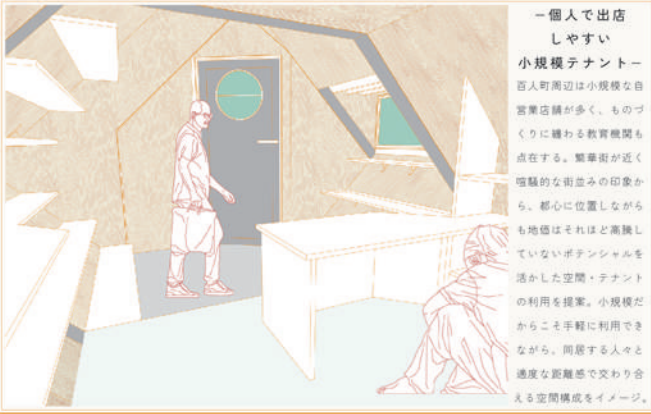
大家・利用者が仮設的な設えを付加していくヴァナキユラーな建築空間のポテンシャルを利用



ー内に伸びる軒ー
階段、ダクト、庇の順に、事物が積層する。ダクトの熱を運ぶ庇は視線を遮り、異なる居室の入り口へと招き入れる軒先になる。ひとつのものにあらゆる意味が付加されることで、部材はあらゆるスケールを模倣し、人々に“気づき”を与える。



ー斜め壁から構成される空間ー
3mグリッドを45°に振ったフレームワークから空間を構成。内部は高床の堅穴式住居のような断面形状をとるように、壁面が床であり屋根でもある多義性をもつ。その余白空間を螺旋状にとぐろ巻く廊下と階段室は半屋外空間で、室外機の風を通すダクトと空間を共有する。建物の空間構成と同調するように多様な環境が絡み合い、その空間特性を利用者が使いこなしていく。



ー個人で出店しやすい小規模テナントー
百人町周辺は小規模な自営店舗が多く、ものづくりに纏わる教育機関も点在する。繁華街が近く、喧騒的な街並みの印象から、都心に位置しながらも地価はそれほど高騰していないポテンシャルを活かした空間・テナントの利用を提案。小規模だからこそ手軽に利用できながら、同居する人々と適度な距離感で交わり合える空間構成をイメージ。